

青少年のスマートフォン利用に関わる課題について

藤川大祐（千葉大学教育学部教授）

1. 青少年が利用すべき多様な機能のわかりやすい提供

フィルタリング（携帯電話回線、無線LAN）、迷惑メール対応、アプリ制限、写真への位置情報非掲載、セキュリティソフト、クレジットカード非登録、コンテンツ利用料金の上限設定等。（写真の位置情報やクレジットカードは、今後大きな問題となりうる。）

2. 通話・メッセージ系アプリ利用についての考え方

すべてを監視することは困難であり、非現実的。「それまでかかわりがなかった者とながるルートを作らない」という条件があれば、個人間の音声や文字のやりとりを監視対象としなくても青少年利用可能ということにできないか（通話やメールと同等と考えられないか）。このためには、無料通話アプリ等に関係する犯罪件数の確認も必要ではないか。携帯電話会社からアプリ運営者への年齢情報提供の推進も必要（SNSへの提供も実現できていない事業者には、至急対応をお願いしたい）。

3. 大手SNSサービスへの対応

Facebook、Twitter、Google+といったEMA未認定の大手SNSに関して、カスタマイズに頼らず、一定の基準の下で標準的なフィルタリングの対象から外すことはできないか。（EMA認定を受けてもらう、青少年利用に関する取り組みの状況を別の枠組みで確認する等）

4. 課金や決済に関する考え方の確立

小遣い程度を超えた金額の利用を認めないという前提のもと、青少年が利用する携帯電話等の端末からは通話・通信料金、コンテンツ料金等が一定の額を超えないしくみを作れないか（プリペイドカード利用も含む）。アプリマーケット等でクレジットカード情報の登録が不要であることの周知は急務。代金後払いの場合には、そこまでの利用額を繰り返し表示するしくみも必要ではないか。

5. 青少年のリテラシー向上への取り組み

ILASの問題を継続的に更新し、学校や企業・団体が使うためのルールを確立する必要がある。ILASの点数を上げることを目標に、青少年のリテラシー向上を進められないか。文部科学省との連携も必要。